



鈴木 理策 シリーズ「KUMANO」から、1996～98年

風景論

日本の新進作家
On Landscape;
Contemporary Japanese
Photography

平野 正樹／鈴木 理策／中野 正貴

2002年6月13日[木]ー7月7日[日]

開館時間：午前10時～午後6時(木・金曜日は午後8時まで)／入館は閉館時間の30分前まで

休館日：毎週月曜日(休館日が祝日または振替休日の場合はその翌日)

観覧料：一般500(400)円 学生400(320)円 中・高生・65歳以上250(200)円

※()内は20名以上の団体料金。同時開催の映像展もご覧になれます。
小学生以下およびお身体に障害をお持ちの方とその介護者は無料。第3水曜日は65歳以上無料[証明できるものをご提示ください。]

東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 (恵比寿ガーデンプレイス内)
TEL 03 (3280) 0099 FAX 03 (3280) 0033
http://www.tokyo-photo-museum.or.jp JR恵比寿駅東口より徒歩7分

主催：東京都／東京都写真美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会
会場：東京都写真美術館 2階展示室
協賛：Asahi アサヒビール株式会社／Nikon／FUJIFILM／花王
特別協力：ニッポン放送
協力：Kodak／堀内カラー／写真弘社

R40

東京都写真美術館では開館以来、「写真表現の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘し、新しい創造活動の展開の場とする」ことを美術館の基本的目標に掲げ、積極的に現代写真の展覧会を開催してまいりましたが、このたび、それをさらに進めて、日本の気鋭新進作家の展覧会を継続的に開催することになりました。

第一回目は、「風景論」と題して、平野正樹・鈴木理策・中野正貴の3人の作品を展覧いたします。平野正樹・中野正貴の両氏は、すでに広告写真の分野で長年、活躍の顕著な写真家ですが、作品表現においても、それぞれ「Tokyo Nobody」と「人間のゆくえ」で2000年度の日本写真協会新人賞を受賞いたしました。また、1999年度木村伊兵衛賞に輝いた鈴木理策氏の近年の旺盛な表現活動には目を見張るものがあります。

3人の写真家たちはまったく異なった視点から、現代における風景に取り組んでいます。静かな画面の中に現代の様々な問題をえぐり出す彼らの「風景」全129点を通して、私たちの「今」を考えてみたいと思います。

平野正樹 1952年生まれ。75年東京写真専門学校卒業。麻布スタジオを経て、86年、平野正樹写真事務所を設立。ボスニア・ヘルツェゴビナの、弾丸の炸裂した壁面に焦点をあてた「Holes」や諫早湾の干拓など、冷戦後の世界の社会問題を抉る「人間のゆくえ」で2000年度の日本写真協会新人賞を受賞。同シリーズは99年にクロアチアのマリノ・チェッティナ・ギャラリー、2000年に目黒区美術館で個展が開催された。01年「週刊現代」ドキュメント写真大賞「海外フォルボルタージュ部門賞」「第13回・写真の会賞」を受賞。又同年「国境なき写真家族団」の創設に参加。出品作は「WINDOWS — East Timor」から17点、「HOLES — Sarajevo」から17点、新作「Stumps of Silence — Tasmania」から3点。

鈴木理策 1963年和歌山県生まれ。85年東京総合写真専門学校卒業。90年の初個展から毎年、精力的に作品を発表する。写真集「Piles of Time」で1999年第25回木村伊兵衛賞を受賞。その空間の空気や記憶を喚起するような独特の作風で人気を博す。写真集に「KUMANO」(光琳社出版、1998年)「サスキア」(リトルモア、2000年)など。プリンストン大学付属美術館に作品が収蔵されている。現在、東京総合写真専門学校、Bゼミ Schooling System講師。この展覧会では「KUMANO」全63作品を初展示。

中野正貴 1955年福岡県生まれ。79年武蔵野美術大学視覚伝達デザイン科卒業。秋元茂氏に師事。フリーランス・フォトグラファーとして、雑誌や広告を中心に活躍する。人も車も写らない世紀末の東京、大都会東京の姿を、8×10インチの大型カメラで精緻に淡々と捉えた「Tokyo Nobody」で2000年度の日本写真協会新人賞を受賞。他にキューバをテーマにした作品集「CUBA Dia Y Noche」(求能堂、2000年)がある。94年にニューヨークADC銀賞を受賞。出品作は「Tokyo Nobody」から29点。



平野 正樹「WINDOWS - East Timor」2000年



中野 正貴「Ichinohashi Jct. Minato-ku」May 1999

「日本の新進作家 風景論」展 関連ワークショップ

展覧会の作り方+アーティスト・トーク

展覧会をよく観るんだけど、いつも疑問に思っていることがある。

展覧会っていったい誰がどうやって作っているの？

そんなことを思ったことはありませんか。

普段はあまり表にでない展覧会の裏側を、「日本の新進作家 風景論」展担当学芸員が、企画立案から具体的な作業まで、あなたの疑問にお答えします。

また、出品作家が自作を前に写真について語ります。作家との交流をお楽しみください。

日時・講師

6月21日(金)
午後5時～6時 「展覧会の作り方」講師：笠原美智子(当館学芸員)

6時～7時半「アーティスト・トーク」講師：鈴木理策(出品作家)

6月22日(土)
午後1時～2時 「展覧会の作り方」講師：同上
2時～3時半「アーティスト・トーク」講師：中野正貴(出品作家)

6月23日(日)
午後1時～2時 「展覧会の作り方」講師：同上
2時～3時半「アーティスト・トーク」講師：平野正樹(出品作家)

定員 30人
参加費 500円

申込 当日受付。先着30名様。当館1F受付までお申し込みください。
当日開始1時間前から受け付けます。

フロア・レクチャー(担当学芸員による展覧会解説)

6月14日(金) 28日(金) 午後2時より

次回展覧会のご案内 2002年
「秋山庄太郎」展(仮称) 7月13日～8月4日

